令和８年度茅ヶ崎市環境審議会 第１回生活環境分科会（ＷＥＢ会議）会議要旨

日　　時：　令和８年８月２０日（木）１４時３０分から１６時２０分まで
場　　所：　茅ヶ崎市役所 分庁舎５階 Ｆ会議室（市役所での参加、傍聴場所）
出席委員：　杉山委員
（WEB 会議により出席）草野委員、三島委員、湯浅委員
欠席委員：　篠原委員
出席職員：　【環境政策課】 渡辺課長、山﨑課長補佐、石橋主任、髙橋主事
【環境保全課】 石川課長補佐、永尾課長補佐
【景観みどり課】 須賀主幹、二階堂副主査
【下水道河川総務課】 齋藤課長補佐
【下水道河川建設課】 山本課長補佐、田中主査
【衛生課】 竹前課長補佐

１　茅ヶ崎市環境基本計画年次報告書（令和８年度版）の評価
→政策目標２（施策⑦～⑪）について評価を行った。
→政策目標５（施策㉑～㉓）について評価を行った。
→主な意見等は次のとおり。（○＝委員、■＝市）

【政策目標２】良好な生活環境が保全されているまち

施策⑦公害防止対策の推進

【年次報告書の評価】
〔評価できる点〕
○「空気のきれいさ」や「土壌の汚れ」に対する満足度が目標値よりも高く推移している点。
○令和７年度の工場・事業場定期立入調査件数が６７件と多く、積極的に実施されていると感じる。
○水質測定物品の貸与を通じて市民への普及啓発を図った。
〔今後検討すべき課題〕
○以前にも指摘したが、空気の「きれいさ」と土壌の「汚れ」が、意味が逆であるのに同じ「満足度」で測定しているところが分かりにくいので、適切なタイミングでの改善が必要である。
○「課題」のところで、工場等への指導について、「より実効性を高める運用が求められています」とあるが、具体的にどのような対応を検討しているのか、言及があるとよい。
○実施した立入調査の具体的な内容、数値等は、環境保全課が発行している「茅ヶ崎の環境」で、分かるようになっているが、参照するページ等が年次報告書にも記載されているとより分かりやすい。せっかくやっていても分かりづらい。より市民に伝わりやすいものになると良いと思う。
○引き続き、定期的な立入調査を実施することが、公害防止に効果がある。
○今後も市民への水質測定物品の貸与事業を継続し、普及啓発を行ってほしい。
○市民ニーズの把握が今後どのように生かされていくのか、ニーズに対する回答を広く市民に知らせることが課題。
○今後検討すべき課題の３項目「茅ヶ崎の環境」について、何か考えはあるか。
■参照するページ等が書いてあればということなので、今後、「茅ヶ崎の環境」に繋がるような記載について検討していきたいと思う。

施策⑧健全な水循環の維持

【年次報告書の評価】
〔評価できる点〕

○地下水水質常時監視結果について、基準超過が無かった点。
○水環境に関する啓発活動として、各イベント出展や柳島水再生センターの見学等を通し、市民に広く知らせている。
○未整備地域の位置情報を地図システムにより可視化し業務の迅速化を図った。
○甘沼自治会館横の水路に地区の雨水が一気に集まってきてしまうことがしばしばあり、以前と環境が変わって線状降水帯が多く発生することもあり溢れてしまう。構造上どうにかできる問題ではないが、今年は担当課に連絡すると早めの除草をやっていただけて、非常に感謝している。雑草がのびたまま雨が降ると暗渠(あんきょ)に入って、詰まった状態になってしまう。引き続き行ってほしい。また、他の地区でも６月以前から定期的に水路の掃除が行われており、対応が行き届いていると感じた。
○甘沼の件だが、昨年度は水路の除草が間に合わなくて溢れてしまっていたが、今回は非常に早く対応してもらえたので感謝している。他の地域でも、鶴が台団地の脇に大きな水路があり、そこもかなり雑草やごみがあったが、綺麗にしてもらい、非常に良い取り組みだと感じた。
〔今後検討すべき課題〕
○雨水くんを鶴が台団地でいくつかみたが、他の地域でももっと活用できるよう啓発活動や補助金などあると良い。
○農業水などが、水資源の河川に合流しないように努めること。
○生活排水処理率について、高額な工事費の負担などの事情を踏まえると、制度周知やPRでは限界があるのではないか。
○水洗化の推進、下水道の整備をさらに進めていくのが課題。
○新千ノ川橋と４５号線が交わる所の河川のごみが非常に目立つ。注意の看板の設置や定期的な清掃も必要かと思う。また、捨てにくい環境にしていく必要もある。
○雨水くんについて、鶴が台団地や、勤労会館の前、市役所の１階に展示されているのを見たが、どのように利用されているのか知りたい。
■雨水くんですが、大型の雨水貯留タンクであり、２００リットル入るものになる。市では小中学校や公共施設に設置して利用してもらっている。また、６月の環境月間パネル展や１１月のちがさき環境フェアでも、市役所１階のふれあいプラザに出して、展示と制度の啓発をしている。昨年までは図書館で夏休み期間に出展していたが、今年はイベントが無くなったので、そちらでは展示はできなかった。家庭での利用について、家庭用だと若干大きいサイズになると思うので、家庭用だとホームセンター等で販売している１２０リットル、６０リットル入るものを雨樋に付けて、雨水を貯めて、流さない。貯まった雨水を散水などに使ってもらう。補助金制度は終了してしまったが、引き続き、展示等を通して、雨水を貯めて、流さないということを周知していきたいと考えている。
２つ目の新千ノ川橋のごみの件は下水道河川管理課が所管課になるので、第２回生活環境分科会で回答する。
○現在、補助金は無いということだが、啓発活動は継続してもらいたい。
○農業水などが、水資源の河川に合流しているというケースは何かあるのか。
■本日、農業水産課が参加していないため、第２回生活環境分科会で回答する。

施策⑨地域での生活環境の保全
【年次報告書の評価】
〔評価できる点〕
○環境騒音に関して、基準達成率１００％となっている点。
○ペットが増加していくなか、ペットの適正管理に関する市民のマナーの向上を推進している。
○犬の形のフンをしないでくださいというような看板は無料で配布されているものなのか。
■犬の適正飼養の啓発看板で、フンの放置を禁ずるというものになる。これは衛生課または環境政策課にて無料で希望者に配付している。
○看板があることによって、罰せられることが分かると抑止力になると思う。
○通常のペットの散歩の時にはマナーを守っている方が多いので、啓発が普及していると思うが、夏休みになって子どもだけでの散歩や、他の家族が散歩させていることが多くなってきて、どうしてもマナーが行き届いていないようで、汚れていることが日常的に多くなってきたと感じている。普段は散

歩をさせていない他の家族にも啓発が届けばと思う。
■効果的かつ継続的な周知啓発ということで、不特定多数への周知啓発方法で、市のホームページやポスターへの掲示等についても、今後、継続して取り組み、市民全体のマナー意識向上に努めていく。
〔今後検討すべき課題〕
○飼育マナーの向上については、市民からの関心も高いと思われるが、有効な指標が整備されていない。説明の中に何らかの数値が盛り込まれているとよいのではないか。
○飼い主は増加傾向にあり、効果的な周知啓発を勧めていくことが今後の課題。子どもも含めた家族への周知の強化。
○駅周辺などの地域で、ともするといかがわしいネオンなどが設置されないように努める。
○飼育マナーに関して何か数値で把握しているものはあるか。
■衛生課に相談が寄せられた件数だが、令和６年度が６５件だったのに対し、令和７年度は５３件と総数は減っている。しかし、犬のフンの害に関する相談については、前年度より４件増加して１５件となっている。犬の適正飼養啓発看板の配布数が前年度２７６枚、令和７年度は２７９枚とほぼ変わらない数字である。自治会への回覧物の依頼や、適正飼養を啓発するパトロールを行った地区では、看板の配布数が横ばいまたは減少した地区が多く、回覧物配布およびパトロールには一定の効果があるものと考えられる。しかし、看板を掲示したい市民が変わらずにいるということは、犬のふん尿などの被害が続いている地区があることを示している。従って自治会への回覧依頼や、啓発パトロールについては、実際に困っている地区にポイントを絞っての周知啓発ということで、効果が見込めるため、今後も継続していきたいと考えている。
○必要に応じて、数値を市民の方に伝えてもらうと現在の取組の状況がより具体的に伝わると思われる。
○ネオンについては何か検討していることはあるか。
■駅周辺については最も店舗が多いところで、看板等については一番規制が緩い地域となっている。いかがわしいネオンがどのようなものか分かりにくいが、例えば、点滅が非常に激しい、光量が強いというような部分については、苦情があれば指導等はできると思っている。ただ、規制については、これ以上は難しいと思う。
○苦情があれば迅速に対応してもらえるということで承知した。

施策⑩まちの美化の推進
【年次報告書の評価】
〔評価できる点〕
○地域主体の清掃活動の推進を継続的に図った点。
○自治会などで、定期的に清掃作業を実施している。
○美化クリーンキャンペーンの実施。
○海岸の一斉清掃等を実施している。
○地域清掃ボランティア清掃への支援としてごみ袋や掃除用品、マイクロプラスチック採取道具の貸出し等が実施されている。
○「水と花と緑のこみち」というのが甘沼と松風台の接合部分にあり、昨年は公園緑地課に草刈りを依頼したが、今年はすでに公園緑地課が行ってくれていて非常に感謝している。松風台は高齢化率が高い地域であり、草が茂って歩きにくい状況だったので、歩きやすい状況にしてほしいと昨年はお願いしたが、今年も非常にきれいにしてもらい、年に２回やってもらえることになった。実際に高齢者の方が何度も行き来して朝に散歩をしたり、夕方涼しい時期に散歩したりする姿が見られるようになってきて、川の流れを見ながら歩けて環境が改善されたので、良い取り組みだと感じた。

〔今後検討すべき課題〕
○環境美化活動への参加をすることで、町の美化意識が深まると思われるので、今後どのように参加者を増やしていくかを考えることが課題。
○少子高齢化も進行しており、持続可能なまちづくりと地域コミュニティの活性化が喫緊の課題と思われる。
○フェンスや草むらというのは、つる科の植物が結構繁茂して絡んだ状態で、場所によって土地の所有

者やバス会社に声がけするとやってくれるところもあるが、この時期だと年に２回やっても追いつかないというのが現状なのでなかなか難しい。自治会加入率が低くなっていて、自治会に参加している方も高齢化しているので、なかなか草むしりとかできないという状況がある。ただ、市の道路や側道、県道、国道とかは、市に申し出ると直接国や県に伝えてやってもらえるという状況も見られるので、すごく感謝している。

施策⑪良好な景観形成の推進

【年次報告書の評価】

〔評価できる点〕

○えぼし岩をちがさき景観資源として、追加指定した。

○事業者との事前相談・協議を行い、屋外広告物などについて基準に適合したものの設置を推進している点。

○屋外広告物や公共サインの点検を行い、必要に応じて、改善指導を実施した。

○景観まちづくりアドバイザーの派遣を行った。

○緑豊かな茅ヶ崎のまちを継続していること。

〔今後検討すべき課題〕

○是正に時間を要する違反物件について、粘り強く対応していくことが必要である。

○継続して屋外広告物や公共サインの点検を行い改善につなげてほしい。

○公共サインの安全点検や落書きシールの除去などを行い適切な管理にとされているが、定期的な点検ができる人員確保が課題。

○具体的に景観まちづくリアドバイザーはどのようなことを行っているのか説明があるといいと思う。

■景観まちづくりアドバイザーについて、市に登録を受けた景観まちづくり市民団体に必要な情報を提供する、助言を行うことをしている。あとは公共施設の建築に際して、事前に景観まちづくりアドバイザーに意見をもらった上で、施設の整備等を行っていくような活動をしている。

○景観まちづくりアドバイザーに直接市民が伝えて市に伝わるということか。

■市民が直接景観まちづくりアドバイザーに何か助言を求めるような制度ではない。茅ヶ崎市の景観みどり課で受付を行っているが、景観まちづくり市民団体という形で、登録された団体に派遣をする形になっている。

○人員確保が課題とあるが、これについて何かあるか。

■公共サインの点検については、人員は足りていると思う。屋外広告物については、市内至るところに掲出がされていて、点検と確認をするためには、さらなる人員が必要とは思うが、公共サインについては、特に問題を感じていない。

○屋外広告物の確認について、定期的な点検ができる人員の確保が課題であると承知した。

【政策目標５】環境に配慮した行動を実践するまち

施策㉑学校における環境教育の充実

【年次報告書の評価】

〔評価できる点〕

○出前授業等の実施件数が伸びている点。

○市職員によるエコスクール（出前授業）は良い取り組みと思います。引き続き実施してほしい。

○副読本・教員向けの情報提供が行われている。

〔今後検討すべき課題〕

○「ちがさきエコスクール」へのアクセス数が伸び悩んでいる点。このサイトは学校教員への教材や情報の提供を目的としているので、教員からの意見を聞くなどして改善するとよいのではないか。

○ちがさきエコスクールとちがさきエコネットを同じところに載せるようにしたら閲覧数が増えるのかと思ったがどうか。

■ちがさきエコネットに比べるとちがさきエコスクールの閲覧数が著しく低いというのは課題として認識している。しかし、ちがさきエコスクールとちがさきエコネットで発信の相手が違うところもあるので、リンクを貼るのもそうだが、教員の方の意見を聞くとか、まずは教育委員会に聞いた上で、どういった周知方法があるか等、改善できるところを検討していければと考えている。

○出前授業というのはなかなか学校との調整も難しいかと思う。年次報告書６３ページに新たなプログラム（海洋ごみについての学習）について、公民館と連携し、学習を実施しましたと書いてあるが、公民館だけではなく、コミュニティセンター等、開催場所の拡大を図れれば、さらに喜ばれると思う。
■公民館に限らず、自治会とかにも、積極的にＳＮＳ等を使って発信していければと考えている。
○公民館に限らず、自治会や、コミュニティセンターとの連携の拡大も必要である。また、各学校が環境学習の取り組みを行っているが、オンライン教材の充実や、効率的な学習が必要であると理解した。

施策㉒地域における環境学習機会の拡充
【年次報告書の評価】
〔評価できる点〕
○市民に対する環境学習機会の提供を継続的に拡大していこうとしている点。
○マイクロプラスチックの採取用具や清掃物品の貸出しを行った。
○生涯学習ガイドブックの項目が環境だけでなく、防災等、幅広く掲載されている。
〔今後検討すべき課題〕
○ちがさきエコネットの「ＳＤＧｓキッズクイズ」は子どもを対象としたものであるが、サイトの中身から考えて、子どもだけでたどり着くことはないと思われる。学校の先生などにも情報提供する必要があるが、大人向けのサイトの中に子ども向けのものが混ざってしまっている。子ども向けの専用サイトがあってもよいのではないか。
○大人向けのサイトの中に子ども向けのものが混ざってしまっているので、例えば、小学校高学年くらいの子どもだけでサイトにたどり着くのが難しいように思う。先生の指導の下で使うならば問題ないと思うが、子どもだけでもたどり着けるような作り方を意識しても良いように思う。
○市民参加がしやすい方法と、ちがさきエコネットのＰＲ法も検討してほしい。
○継続して貸出しを実施し、普及啓発をおこなってほしい。
○ごみ袋の有料化等の取り組みの際は、学習会も開催されたが、何かないと、行政も地域に出てこない。
○生涯学習ガイドブックを配布する場所をもっと広げて、多くの方に知ってもらえると良い。
○年次報告書資料編１１ページからの「市民などを対象とした環境に関する事業」について、しめ縄づくりは香川公民館でも行われていたが、掲載されていなかった。
■公民館に照会した結果、しめ縄づくりの報告が上がってこなかったので、環境という捉え方ではなく、行ったのかと思われる。
○掲載されている取り組みは照会をして、回答があったものを載せているということで理解した。次回照会がある際は、広く捉えて行事の報告をしてもらえればと伝えてもらいたい。また、ごみ袋の有料化等の取り組みの際には、色々な機会を捉えて、行政にも地域に出てきてほしい。

施策㉓庁内の環境意識の向上
【年次報告書の評価】
〔評価できる点〕
○市職員の環境意識が高い水準にある点。
○茅ヶ崎市環境マネジメントシステム（Ｃ－ＥＭＳ）が継続的に適切に運用されている点。
○職員がマイボトルを持参し、本庁舎入口の給水を利用しているところをよく見かける。
○トイレの自動消灯など使わない電気を消している様子が見られる。
○市長自ら、公用車をなるべく利用せず、徒歩で通勤されているところを見かけるとの市民の方から意見があり、感心する。結果的に、市長が使用する公用車の廃車にもつながり、タクシーの使用による経費削減にもなった。
○各種研修会や関係機関へ職員派遣を図った。
〔今後検討すべき課題〕
○すでに全体的に高い水準にあるので、これを維持しつつ、さらに踏み込んだ改善をするための方法の検討をどう進めるのか。
○「エネルギーの見える化」により意識は高まるので、継続性が必要。

○環境政策課内での情報共有はなされているものの、より活発に他の課との共有を図るようになるとより良いと感じる。
○継続して研修等を行い、庁内の環境意識の向上につなげてほしい。
○今後、定期的に地域との意見交換等を実施すること。

２　その他

→第２回生活環境分科会の案内を行った。

日 時 令和８年８月２７日（木）１４時３０分から

場 所 茅ヶ崎市役所分庁舎５階 Ｆ会議室

■配付資料

資料１　事前評価シート（生活環境分科会）